

三井：皆さん、こんにちは。三井智映子です。

さて、早速ですが、相場先生をご紹介したいと思います。相場先生は国内為替ディーラー、株式トレーダーを経て、外資系投資銀行でファンドマネジャーなどをされていたということですね。現在は自己資金の運用とうねり取りというプロのトレード技術を教える投資家の育成に注力していらっしゃるということです。今日はどうぞよろしくお願いします。

相場：よろしくお願いします。

三井：ご覧いただいている方は、多分、このうねり取りという相場先生の手法に興味津々だと思うのですが、どんなものなのか、簡単に教えていただけますか。

相場：うねり取りといいますのは、江戸時代の米相場が発祥なのです。

三井：江戸時代？　すごい何か思ったより古いですね。

相場：古いですよ。米相場にも相場師がいたのです。そして、米相場の相場師はうねり取りを使って利益を上げていたのです。そして、明治になって、証券取引所が開設され、明治、大正、昭和、そして平成と、実は本物の相場師、あるいは本物のトレーダーというのは、実はうねり取りをやっていることが多いです。

トレーダーの中には天才トレーダーというのがいますけれども、天才トレーダーのやっていることというのはわれわれにはできないです。私も金融機関にいたけれども、天才トレーダーのようなトレードを私はできません。

三井：相場先生でもそうなのですか。

相場：できない、できない。

三井：天才って、なってみたいなと思いますけれども、なかなかそうはいかないですよ。

相場：いかないですね。ところが、このうねり取りという手法ですと、誰でもできるようになります。

三井：本当ですか。

相場：はい。再現性があります。1度できると、またできる。そして、積み重ねですから、1度できたところにまた工夫を加え、練習を重ねていくと、どんどん上手になります。車の

運転と一緒にですよ。

三井：車の運転。車の運転は誰でもできますよね。

相場：最初はできないでしょう？ 教習所に行って、教えてもらって、何か本当に自分は卒業できるのかななんて思い、先生に怒られながら。路上教習をやって、免許を取って、初めて公道に出たとき、ドキドキするじゃないですか。車とすれ違うときね。初めて首都高を走ったときとか。

三井：ドキドキします。

相場：でも、今だったら、もう余裕じゃないですか。そのように上手に。これは技術。自転車に乗るのも一緒ですよ。

三井：ただ、何か自動車の運転や自転車は、確かに最初は自転車も転びますけれども、誰でもできるイメージなのですが、誰でもできる？

相場：誰でもできます。

三井：うねり取り。

相場：うねり取りは誰でもできます。

三井：マスターできるように教えていただければ、なるということですか。

相場：一つ、そこで考え方を教えていただかなければならないことがあります。大体、皆さん、会社四季報を見たり、新聞を読んだり、そして買う銘柄を決めています。

三井：そうですね。皆さん、やはりご覧になっている方も、決算とか、ニュースとかの情報は多分、見ていらっしゃる方はたくさんいらっしゃると思いますし、あとチャートを穴が開くほど見つめている方もいらっしゃると思うのですよ。駄目ですか。

相場：うねり取りの考え方からいったら、あまりよろしくないです。実はそのうねり取りというのはチャートだけ。

三井：チャートだけ？

相場：100%、チャートではありませんが、おおむねチャートの動きだけを見てやるのですね。

皆さんも、三井さんも、後でどの銘柄でもいいからチャートを見ていただくと、上がった後、必ず下がります。下がった後、必ず上がります。上がっているのをずっと見ていてください。いつか必ず上げ止まって、また下がっていきますから。下がっていくのをずっと見ていてください。下げ止まって、横ばいになって、また上がっていきますから。その上がっていくのをずっと見ていてください。また下がっていきますから。どの銘柄も全部そうです。世界中の金でも、銀でも、東京のマーケットの株でも全部、上げ下げを繰り返して上がっていくか、上げ下げを繰り返して下がっていくか、あるいは上げ下げを繰り返して横ばいか。そのどれかに必ず当てはまるのですね。

三井：なるほど。やはり何かテクニカルとかが好きな方が、チャートだといらっしやると思うのですけれども、それとはまた違うのですか。

相場：また違います。テクニカルはいろいろなことを使うでしょう？ あれはいろいろなことをやっているうちに、本当に分からなくなります。

三井：線を引きまくりますよね。

相場：それで分からなくなってしまうます。

三井：確かに。

相場：うねり取りは、チャートだから、テクニカルなのだけれども、いろいろな難しいことは廃して、ただの上げ下げの流れを追いかけていくということで、考え方は、全ての会社に関わることはチャートに現れるというのがうねり取りの基本です。

三井：何か格言が出たところで。

相場：そういうことです。大事なのはチャートの練習なのですよ。

三井：練習？ チャートを見る練習をするということですか。

相場：うねり取りでは見る練習とか、売り買いの練習をしなければいけません。

三井：やはり株式で練習という言葉聞いたことはないですね。

相場：あまりないでしょう？ 例えば高校球児のことを考えてほしいのですけれども、三井さんに調べていただいた、甲子園で優勝するためには地方大会で7回勝って。

三井：そうなのですよ。何か地方によるけれども、マックスだと7回ですかね。

相場：そう。7回ぐらい勝つと、例えば神奈川県大会優勝とか東京都大会優勝。そして、甲子園に行きます。甲子園だとどうですか。6回とおっしゃっていましたね。

三井：何かシードがなければ6回です。なので、マックスだと14回とか。十何回か勝たないと、優勝までいかないみたいですね。

相場：そうです。そうすると、地方大会8試合、甲子園で大体6試合として、甲子園で優勝するためには14試合の経験をするわけですよ。

ところが、14試合で日本一、甲子園で優勝をしたチームというのは、恐らく365日中360日は練習をして、そして何百試合という試合を経て甲子園で優勝になるわけですから、本当の成果を出す人というのはどの分野でも練習をしています。テレビに出ている歌手も、あの番組で歌っているだけではなくて、多分、相当練習をしています。

三井：そうですね。

相場：それから、演劇の人たちも、舞台がいきなり本番じゃないではないですか。

三井：ではないです。

相場：舞台の前に、それこそもう血のにじむような練習をして臨みます。

三井：そうですね。舞台の稽古の前も、やはり自分でもしていますものね。

相場：しますよね。だから、株の世界で、練習をして本番の買いを入れるという人はなかなかいません。

三井：何かそう伺うと、確かに練習をするのは当たり前だと思っていましたけれども、株に関しては、そう思っている方はすごく少ないのではないですかね。

相場：少ないです。うねり取りというのは、囲碁や将棋のように、将棋でいきなり王手をかける人はいないではないですか。

三井：いないです。

相場：まずいろいろなことで相手を揺さぶったり、取ったり取られたりして、最後、王手で勝つではないですか。だから、株のうねり取りの世界でも、囲碁、将棋と一緒になのです。そうすると、練習が必要なのです。

三井：なるほど。

相場：うねり取り。再現性があります。そのために練習をする。そして、練習を十分にした後、本番に臨む。これが私がやっているうねり取りなのです。

三井：では、相場先生も練習をされて、今の相場先生に？

相場：いまだに練習をしていますよ。

三井：いまだに？

相場：そうですよ。イチロー選手だって、今も練習をしているでしょう？ それから、浅田真央さんも、引退した後だって、1日8時間練習しているらしいですよ。

こういう例えを皆さんによく言っているのですけれども、キャベツの千切りがあります。キャベツの千切りは1個目だとそんなに上手にできません。指を切ってしまうかもしれません。でも、2個も3個も、それから毎日3個ずつ。毎日3個ずつやって、1年たったら、多分、目を閉じても切れるようになります。練習を積み重ねることで上手になっていきます。これがうねり取りです。

三井：なるほど。では、練習すれば、誰にでもそのうねり取りを習得することができるようになるという。

相場：なります。これは100%なりますね。

三井：100%？

相場：なります。

三井：大きい声が出ちゃった。100%。皆さん、でも、そのうねり取りをどうやって練習すればいいのかとか、あと、実際、今の自分たちがやっている投資がどう間違っていると言ったら変ですけども、ちょっと相場先生のうねり取りからいうとどうずれているのかが気になると思うので、次回は一般の投資家さんがされていないと思われること、また気になる銘柄選びについてお話を伺っていきたいと思います。次回もどうぞよろしくお願ひします。

相場：よろしくお願ひします。